

スーパー・グローバル大学創成支援（タイプB）千葉大学 取組概要

1. 構想の概要

【構想の名称】

グローバル千葉大学の新生—Rising Chiba University—

【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

本学は、2014年4月に「千葉大学改革構想」を策定し、大学の有する専門領域を「理系、生命科学系、文系」の3つの領域に束ね、「TRIPLE PEAKS CHALLENGE」と銘打ち「技術・医療・起業」の高度なプロフェッショナル人材を排出することを目標としている。このような中において「未来のグローバルな人材」は「人間力のある人材」であると考え、人間力の育成に必要な「俯瞰力」「発見力」「実践力」を身につける教育プログラムを開発し、グローバル人材育成を推進する。「グローバル千葉大学の新生 -Rising Chiba University-」の構想名のもと、今日のように、グローバルに活躍する人材、イノベーションを生み出す人材が世界規模で渴望される中で、社会経済のダイナミックな変化に柔軟かつ適切に対応できる文理融合型の教養や専門教育を提供できる新組織を創設し、千葉大学を新生(Rising)する。

【構想の概要】

本構想では、新たな大学の景色を、新たな教養学部で国内外の学生にテーラーメードの教育を供給することで実現する。そのためにガバナンス改革→学修制度の改革→プログラム改革とプログラムの充実のための進化を実現させるとともに、海外に分校を設置することを目標にグローバル・ネットワーク改革を行う。なかでも、千葉大学の特徴的な取組みとして、留学のための新たな飛び入学「国際教養学プログラム」を設置し、飛び入学で貯金した時間を留学で有効に利用するプログラムを実施する。このプログラムを支えるためのテーラーメード教育を推進する専門職員SULA(Super University Learning Administrator)職の創設などの改革を行い、大学を新生する。またこの他、「発見力」のために大学院レベルの融合プログラムを実施する、「実践力」のために多様な研究ユニットを設け実施する、ことでグローバルなエキスパート人材を育成する。このために、700科目以上の英語による教養科目授業の実施、学部1学年の50%＝1,200人(年間)の留学、3,000人(年間)の留学生の受け入れ、学部入学定員の1割にあたる120人分を特別な入試で受け入れる等を目標とし、グローバル・キャンパスを目指す。



図1 構想概要

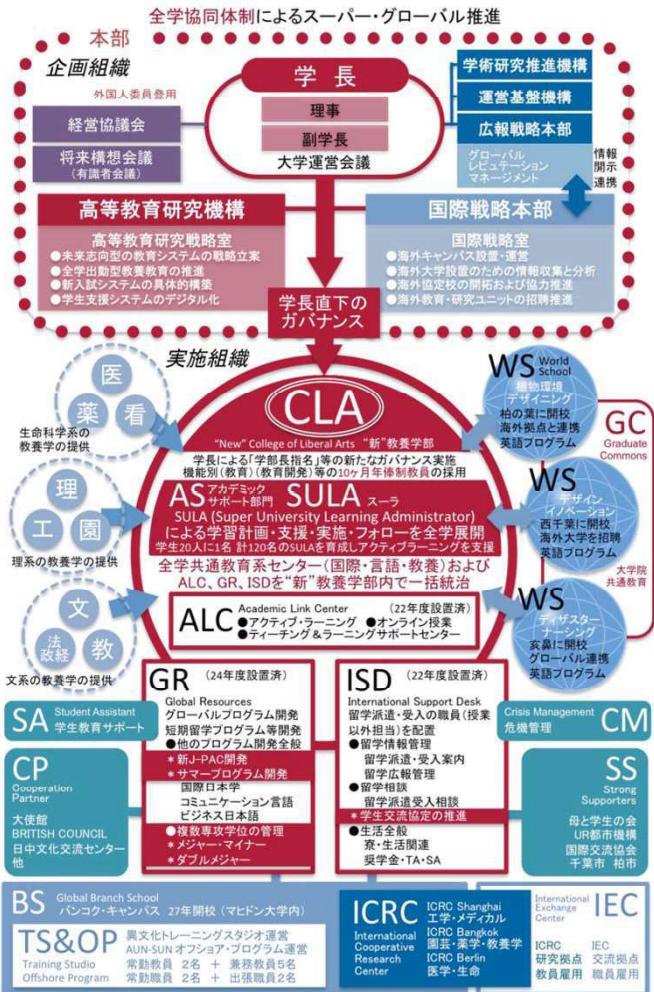


図2 実施体制

【10年間の計画概要】

○ 平成26年 RISINGプログラム開始(グローバル人財育成skipwise継続実施)および学事歴の国際化

平成24年より実施しているグローバル人財育成プログラムであるskipwiseプログラムを拡大し、派遣・受入両方を実施するプログラムとして、RISINGプログラムをスタートする。「国際日本学」をコアに派遣留学の継続実施と留学生受入の拡大路線を実施するために、協定校の拡大、学事歴の国際化対応を実施する。

○ 平成28年 「国際教養学部」設置

本事業の大きな柱であり、千葉大学のグローバル人財育成のドライビング・フォースとなる新たな学部「国際教養学部」を設置する。これまでの「国際日本学」のプログラムから発展し、国際・日本・科学を混合(ブレンド)して学ぶ学部を設置する。

○ 平成30年 新たなグローバル学修システム(メジャー・マイナー・サーティフィケートの実施)

国際教養学部で実施する3メジャー(グローバルスタディーズ、現代日本学、総合科学)を全学に開放し、新たなマイナープログラムやサーティフィケートプログラムを実施する。全学で文理混合型の学修を推進し、真のグローバル人財を育成する。

○ 平成31年 飛び入学全学標準装備による高大接続の強化で新たなグローバル化推進

千葉大学の大きな特徴である飛び入学を全学で実施し、高大接続の新たな入試を新入試のシステム開始に合わせて実施する。この新たな高大接続のもと、特別入試でもグローバルに特化した入試を実施し、多様なグローバル人財を確保する。

○ 平成33年 全学でのサマー(スプリング)・プログラム本格開始

平成25年より実施している留学生受入の新たなプログラムである「サマー・プログラム」及び「スプリング・プログラム」を全学で実施し、多様なプログラムを整備する。これにより、1,200人の短期受入れ留学生を確保し、日本ファンの留学生を育成する。

○ 平成35年 グローバルキャンパス実現のための海外校設置

本事業のもう一つの大きな柱である海外校設置を目指す。平成28年度にはキャンパスの設置を行いその後に強力な実績を上げ、最終的な目標である海外校の設置を目指す。年間200-300人の学生の送り出しと受入れを行う。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

本事業では、4つの改革を実施し、千葉大学を新生する。

■ガバナンス改革による新生

本構想で設置する国際教養学部では、「グローバル」と「イノベーション」をキーワードに幅広い学修が可能な文理混合のプログラムを実施する。この新学部の中に、全学教育の運営を支援する実行組織「アカデミック・サポート部門(AS)」を設置し、新たなアカデミックな業務を担当する専門職員SULA(スーラ Super University Learning Administrator)を育成する。

■ガバナンス改革から学修制度の改革へ

千葉大学の大きな資産である飛び入学を利用して「飛び入学で留学！」を合い言葉に、飛び入学により時間を貯金し世界に飛び立つことを推奨する新たなプログラムとして、「国際教養学プログラム」を実施する。また、学事歴についても6タームを導入することにより、海外の大学の授業カレンダーと間接的に同期させ、単位認定の仕組みまで確立する。

■学修制度の改革からプログラム改革へ

多様な学びを実現するために、文理混合を主眼においたプログラム開発を学部及び大学院で行い、日本人及び留学生の双方を対象として実施する。具体的には、学部におけるダブルメジャーと大学院における大学の世界展開力強化事業のプログラムを基にした部局横断型のワールド・スクール・プログラムを全学に展開する。

■グローバル・ネットワーク改革

グローバル・ネットワーク改革では、大きく2つを実施する。海外校の設置とアライアンス交流である。これまでの交流実績を基に、タイ・マヒドン大学に海外キャンパスを設置し、学部生向けの体験型短期留学(トレーニング・スタジオ)プログラム、専門教育プログラム、オフショアプログラム、ダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム、国際共同研究拠点(園芸学、生命科学)を開設する。



図3 特徴的な取組み

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**テーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成26年度は、学内よりSULA候補者を選定し、今後の組織構築の準備を始めた。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)の試験的に開発し2回実施。その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。プログラム広報用のビデオも作成した。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

○ 学事歴や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進する。とくに第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事歴に対応する。これに伴い、各学科のカリキュラムマップを構築、分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバスの英語化を推進した。

ガバナンス改革関連

○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部(予定)の設置準備

グローバル人財育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「国際」+「日本」+「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型の新たな学部を設置し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置するための準備を行った。



〈国際教養学部の予告ホームページ〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より、積極的に年俸制を導入しており、50名以上の実績を確保した。また、平成27年度より実施するクロス・アポイントメントの整備を行い、国際的なクロス・アポイントメントを実施、海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。最終的には、120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—35歳未満の若手職員を学生派遣プログラムのために現地に同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、8名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた。

教育改革関連

○ 高度なアクティブラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブラーニングを推進するために、高度なPBL型のアクティブラーニング科目群を10科目以上設置した。また、ステューデント・アシstant制度(SA制度)を拡大し、イングリッシュハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した。

○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャーのほかに、英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築の検討を開始した。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年=4年)を修得するプログラムを計画した。また、B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)は、パイロット期間から実プログラム実施へと移行した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員が英語による教養科目的開設を義務づけた。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成26年度には新規に留学導入専用のBOOTプログラムを5つ設置する等、140名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショートプログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成26年度には、ショート・プログラム(サマー(センター)プログラム)の試験的に開発し、2回実施60名の留学生を獲得できた。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。平成28年度設置予定の国際教養学部では、定員の11%を英語による特色入試で選抜する予定で計画している。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の創設

国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。平成26年度は、その設置準備を行い、平成28年度設置を目指している。

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。平成26年度は、平成28年に創設するための様々な整備を開始した。

○ 時間を貯金しダブルメジャー留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。平成27年度には、これまで大学の世界展開力強化事業として実施した「植物環境デザインプログラム」をワールドスクール化するため、これまでのエビデンスをまとめ、プログラムの構築を行った。

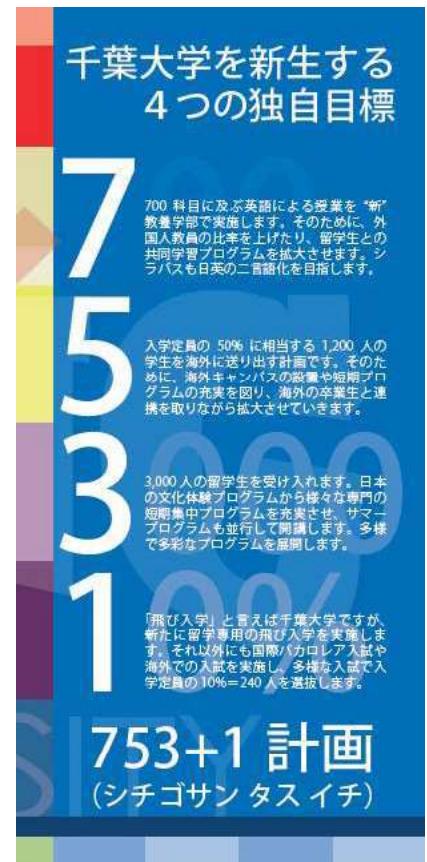
■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との連携を強化し、サテライトキャンパス設置のための多様な連携を開始している。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。

○ 国内他大学とのネットワークの構築

平成26年より始まった国立六大学連携(新潟・千葉・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内の大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。



〈753+1計画のパンフレット〉



3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**テーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成28年度にSULAとして採用される人材は学内から募集し、国際教養学部の事務部に2名よりスタートする。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(センター)プログラム)を試験的に開発し2回実施。平成28年度は13プログラム本格実施。海外の協定校に資料配布。その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。プログラム広報用のビデオも作成した。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進する。とくに第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事暦に対応する。ナンバリングおよびカリキュラムマップの構築については平成27年度に終了し、平成28年度より本格導入した。以上のように分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバスの英語化も推進し、医学部、薬学部、工学部では終了している。

ガバナンス改革関連

○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人財育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「国際」「日本」「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型の新たな学部を設置し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のホームページ〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より、積極的に年俸制を導入しており、100名以上の実績を確保した。また、将来的にはクロス・アポイントメントの整備を行い、国際的なクロス・アポイントメントを実施、海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。最終的には、120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。また、職員の研修制度として、新たにシャペロン研修—35歳未満の若手職員を学生派遣プログラムのために現地に同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、12名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた。

教育改革関連

○ 高度なアクティブラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブラーニングを推進するために、高度なPBL型のアクティブラーニング科目群を10科目以上設置した。また、ステューデント・アシstant制度(SA制度)を拡大し、イングリッシュハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した。

○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャーのほかに、英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築の検討を開始した。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年=4年)を修得するプログラムを計画した。また、B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)は、パイロット期間から実プログラム実施へと移行した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員が英語による教養科目の開設を義務づけた。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成27年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで220名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショートプログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成27年度には、ショート・プログラム(サマー(センター)プログラム)を試験的に開発し、2回実施60名の留学生を獲得できた。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。平成28年度設置の国際教養学部では、定員の11%を英語による特色入試で選抜した。



〈753+1計画のパンフレット〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の創設

国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。平成27年度は、その設置準備を行い平成28年度からの設置が認められた。

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。平成27年度には、SULAとして採用される人材を学内から募集し、平成28年度から国際教養学部の事務部に2名配置した。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。平成27年度には、これまで大学の世界展開力強化事業として実施した「植物環境デザインプログラム」をワールドスクール化するため、これまでのエビデンスをまとめ、プログラムの構築を行った。

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との連携を強化し、サテライトキャンパス設置のための多様な連携を開始している。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UCSD(University California San Diego)に生命科学用のサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。



○ 国内他大学とのネットワークの構築

平成26年より始まった国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内の大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに12名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーションまで幅広く実施している。また学内の教養科目の英語による提供数を拡大した。



〈イングリッシュ・コミュニケーション〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、**テーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)**として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成28年度には2名をSULAとして国際教養学部に任命・配置した。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成28年度は13プログラムを本格実施した。これにより新たに300名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料配布・広報ビデオ作成)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈ショート・プログラム広報ビデオの一部〉

○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進している。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進や、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月よりの受入れで海外の学事暦に対応している。ナンバリング及びカリキュラムマップを本格導入し、デジタルポートフォリオシステムを稼動させた。以上のように分かりやすく授業体系を説明するとともに、シラバス英語化も推進し、目標を大きく上回る約1200科目を英語化している。

ガバナンス改革関連

○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人財育成の大きな成果である『国際日本学専攻(副専攻)』を礎に、「国際」+「日本」+「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型の新たな学部を設置し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のホームページ〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、100名以上の実績を確保した。また、平成27年度よりクロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成28年度に2名配置し、最終的には120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。また、職員の研修制度として、新たに**シャペロン研修**—若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修—を行い、13名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた。

教育改革関連

○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度な**PBL型のアクティブ・ラーニング**科目群を10科目以上設置した。また、スチューデント・アシスタント制度(SA制度)を拡大し、イングリッシュ・ハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した。

○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャーのほかに、英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステム構築を検討した。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年=4年)を修得するプログラムを計画した。また、**B7M5プログラム**(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施した。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たに「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、5.5%増加した。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成28年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで330名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成28年度には、ショート・プログラムを実施し、300名の留学生を獲得できた。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では平成29年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の創設

平成28年度に設置した国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。大学の世界展開力強化事業として「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」等学際プログラムを構築してきた。これをワールドスクール化するための実施母体としてデザイン・イノベーション・センターを組織した。

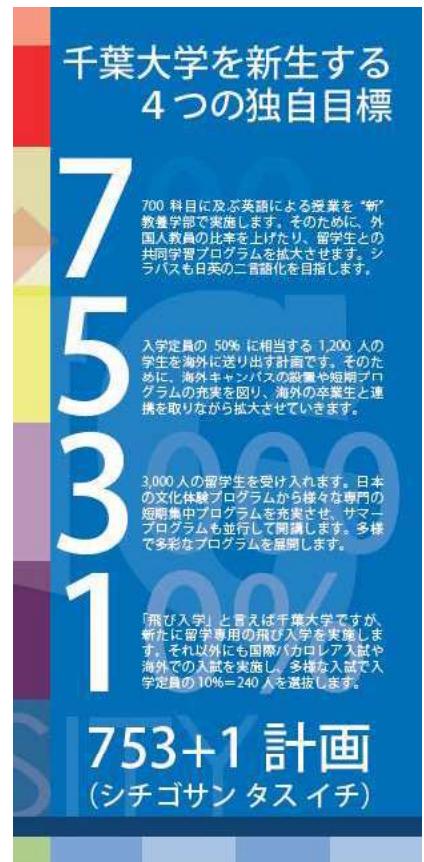
■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との多様な連携を強化し、サテライトキャンパスを平成29年度に設置する。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UC San Diegoにサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。

○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。



〈753+1計画のパンフレット〉



〈マヒドン大学でのプログラムPR〉

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに17名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーション、イングリッシュ・ハウスでの実践型個別トレーニングを実施している。



〈イングリッシュ・ハウス〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、テラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成29年度には新たに10名を任命・配置し、12名で対応している。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(センター)プログラム)を平成29年度は7プログラムを本格実施した。これにより新たに約200名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料配布・広報ビデオ作成)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈食の安全:ショート・プログラム〉

○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進している。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマー・プログラムの推進、独自サマー・プログラムの設置を行った。このギャップタームを利用するなどにより、留学が必修であり、複数回の留学を推奨している国際教養学部では、2年間でのべ120名以上が留学している。一方、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月からの受入れで海外の学事暦に対応している。

ガバナンス改革関連

○ グローバル化の牽引学部となる国際教養学部の設置

グローバル人財育成の大きな成果である『国際日本学(副専攻)』を礎に、「国際」+「日本」+「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型の新たな学部を設置し、学内のグローバル化を推進する。グローバル化教育を含む新たな教育システムを先導的に実施する学部として位置づけ、平成28年度に設置した。



〈国際教養学部のカリキュラム構造〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、330名以上の実績を確保した。また、平成27年度よりクロス・アポインメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成29年度は12名配置し、最終的には120人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。また、職員の研修制度として、新たにシャペロン研修—若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修を行い、16名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた。

○ 外国語教育の授業改革

平成29年度に外国語教育の改革を目指したワーキンググループを設置した。2020年度よりカリキュラム改革を実施する。

教育改革関連

○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度なPBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上設置した。また、スクーデント・アシスタント制度(SA制度)を拡大し、イングリッシュ・ハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した。

○ ダブルメジャー、マイナー、サーティフィケートシステムの検討

現行の制度に合わせた、3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャーのほかに、英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築し、平成30年度より導入する。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年=4年)を修得するプログラムを計画した。また、B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施した。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」—700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たに「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、2%増加した。

○ 「5」—50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

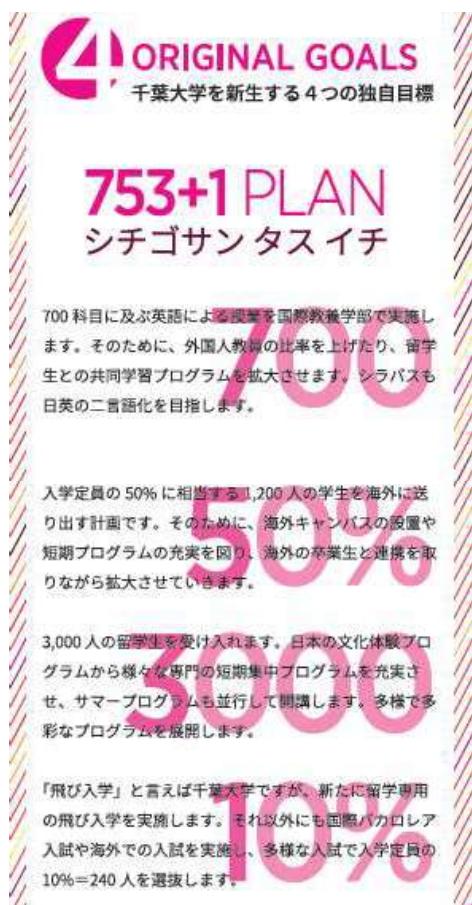
入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成29年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで750名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」—3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成29年度には、ショート・プログラムを実施し、約200名の留学生を獲得できた。

○ 「1」—10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では平成30年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。



〈753+1計画のパンフレット〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の創設

平成28年度に設置した国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テーラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。大学の世界展開力強化事業として「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成」等学際プログラムを構築してきた。これをワールドスクール化するための実施母体としてイノベーション教育センターを組織した。

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

タイのマヒドン大学との多様な連携を強化し、バンコク・キャンパスを平成29年9月に設置した。年間200人以上の学生の派遣を実現し、強力な連携関係を構築する。平成28年度には、ドイツ・シャリテ医科大学(フンボルト大学)にベルリン・キャンパス、アメリカ・UC San Diegoにサンディエゴ・キャンパスを設置し、海外3キャンパスを運営する。



〈バンコク・キャンパス開所式〉

○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、東北師範大学(中国長春)の共同利用事務所の開設を行った。今後も多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに17名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーション、イングリッシュ・ハウスでの実践型個別トレーニングを実施している。



〈イングリッシュ・ハウス〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、テラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成30年度には新たに13名を任命・配置し、24名で対応している。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成30年度は13プログラムを本格実施した。これにより新たに約300名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料配布・広報ビデオ作成)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。



〈食の安全:ショート・プログラム〉

○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進している。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマー・プログラムの推進、独自サマー・プログラムの設置を行った。このギャップタームを利用するなどにより、留学が必修であり、複数回の留学を推奨している国際教養学部では、3年間でのべ270名以上が留学している。一方、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月からの受入れで海外の学事暦に対応している。



〈国際教養学部のカリキュラム構造〉

ガバナンス改革関連

○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部の理念である「国際」+「日本」+「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型教育を、2020年以降に全学展開する。そのために、2020年入学の学生より全員留学(ENGINEプログラム)とし、さらなるグローバル、さらなる混合型教育を推進していく。

○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、前年度に引き続き300名以上の実績を確保した。また、平成27年度よりクロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成30年度は24名配置し、最終的には60人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。また、職員の研修制度として、新たにシャペロン研修一若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修を行い、17名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた。

○ 外国語教育の授業改革

平成29年度に外国語教育の改革を目指したワーキンググループを設置し、英語力の到達度水準に係る全学的なルーブリックを策定した。2020年度よりカリキュラム改革を実施する。

教育改革関連

○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度なPBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上設置した。また、スチューデント・アシスタント制度(SA制度)を拡大し、イングリッシュ・ハウスにおけるランゲージ・ラーニング・サポートなど機能的なSAの導入を推進した。

○ マイナー、サーティフィケート・プログラムの充実

英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築し、平成30年度より導入、マイナー、サーティフィケートプログラムを戦略的に充実させた。3年(早期卒業)+2年=5年の文理混合型ダブルメジャーの設置は、継続検討を行っている。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)を修得するプログラムを計画した。また、B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施した。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」—700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たに「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、約1%増加した。

○ 「5」—50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に派遣する。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させる。平成30年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで約900名程度の学生を派遣した。このような多様なプログラムを今後さらに開発する。

○ 「3」—3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の実現のために、日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ開講する。平成30年度には、ショート・プログラムを実施し、約300名の留学生を獲得できた。

○ 「1」—10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では平成31年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。

753+1 PLAN
シチゴサン タスイチ

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様で多彩なプログラムを展開します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜します。

〈753+1計画のパンフレット〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の進化

平成28年度に設置した国際教養学部では、国際社会を理解し、世界に貢献する日本発の技術や日本発の新文化を学ぶことで、新たな日本発の国際人を育成する。広範な文理混合教育により得た知識を統合させ、日本独自の視点から問題発見・解決する能力を育む。このような教育理念を拡大させ、大学院レベルでのプログラムの設置を行っていく。

○ 特別専門職SULAの創設

skipwiseプログラムでは、学務専門の職員としての新たな職能を持った人材として「アマヌエンシス」を育成してきたが、SULAはこのアマヌエンシスの上位職種として位置づけ、テラーメード教育を実現する本プログラムの要と言える人材育成である。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院におけるグローバル化のために、ワールドスクールを設置する。このワールドスクールは、複数の研究科を横断するプログラムとして位置づける。大学の世界展開力強化事業として「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成」「COILを使用した日米ユニーク・プログラム」等学際プログラムを構築してきた。これをワールドスクール化するための実施母体としてイノベーション教育センターを組織した。

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

グローバル・キャンパス推進基幹を新たに設置、バンコク・キャンパス(平成29年9月)、ベルリン・キャンパス(シャリテ・ベルリン医科大学(旧フンボルト大学医学部)平成28年)、サンディエゴ・キャンパス((UC San Diego)平成28年)の海外3キャンパス、IECオフィス、海外事務所、合計17の拠点を戦略的に運営する基幹を組織し、全員留学に向けてさらに推進していく。



〈バンコク・キャンパス開所式〉

○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、理工系大学連合であるE9(中国卓越大学連盟)との連携協議および情報交換会を実施した。今後も、多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

7. 取組内容の進捗状況(令和元年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 教員の国際化によるプログラムの拡大

グローバル関連プログラム実施のために、これまでに17名の教員を採用した。プログラムでは、日本文化・サブカルチャーからイングリッシュ・コミュニケーション、イングリッシュ・ハウスでの実践型個別トレーニングを実施している。



〈在日本メキシコ大使館でのプレゼンテーション〉

○ 職員の国際化と新たな専門職員SULAの育成による国際化推進

海外の大学を卒業、あるいは留学経験のある職員から、テーラーメード教育の実現のためのSULA(スーラ)(Super University Learning Administrator)として学務専門の新たな職員を育成し国際化を推進する。平成31年度には新たに14名を任命・配置し、37名で対応している。また、国際化人材専門の採用も開始し、専門職員の拡張を図る。

○ 外国人留学生数向上のためプログラム開発及び日本人との共学プログラム

ショート・プログラム(サマー(ウインター)プログラム)を平成31年度は14プログラム実施した。これにより新たに約300名の留学生を受け入れた。海外の協定校への広報(資料・広報ビデオ)の実施、その他タームプログラム(2ヶ月間)等の計画を検討。本プログラムでは、日本人学生との共学を推進し、国内でのグローバルプログラムを推進する。また、ENGINEプランにおける全員留学のための新たなプログラムを12設置した。



〈タイ:地方創生ショート・プログラム〉

○ 学事暦や教務システムの国際化の推進

平成28年度より6ターム制(4月より2ヶ月×6ターム)を導入し、留学派遣および留学受入を推進している。特に第2ターム(6-7月)に必修科目を設置しないことによる、海外サマープログラムの推進、独自サマープログラムの設置を行った。このギャップタームを利用するなどにより、留学が必修であり、複数回の留学を推奨している国際教養学部では、4年間でのべ約400名が留学している。一方、第3ターム(8-9月)に留学生を対象にしたプログラムを実施し、9月からの受入れで海外の学事暦に対応している。

ガバナンス改革関連

○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部の理念である「国際」「日本」「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型教育を、2020年以降に全学展開する。そのため、2020年入学の学生より全員留学(ENGINEプラン)とし、さらなるグローバル、さらなる混合型教育を推進していく。



〈ENGINEプラン全員留学〉

○ グローバルな人事制度

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、前年度に引き続き300名以上の実績を確保した。また、平成27年度よりクロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。

○ SULAの育成と研修制度の充実

SULAというアカデミック(主に学修支援と留学支援)な業務を担当する専門職員制度を創設し、高度専門職員の採用・育成を積極的に行う。平成31年度は37名配置し、最終的には60人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。また、職員の研修制度として、若手職員を学生派遣プログラムに同行させ、学生の監督、協定校担当職員との交渉・交流を行わせる研修を行い、平成31年度は8名を派遣し職員の国際性・語学力を向上させた。これまでにのべ約70名が研修に参加している。

○ 外国語教育の授業改革

令和2年度より、英語の必修科目単位数を倍増させる。専門課程でも、プレゼンテーション中心の英語による授業を開講し、継続的に英語を学習する制度改革を行った。2020年度より完全レベル別編成のカリキュラム改革を実施する。

教育改革関連

○ 高度なアクティブ・ラーニングの推進=スマート・ラーニングへの進化

千葉大学の強みであるアカデミック・リンクを中心としたアクティブ・ラーニングを推進するために、高度なPBL型のアクティブ・ラーニング科目群を10科目以上設置した。さらに、留学中でも必修科目などを継続的に学習できる、どこでも学習できる=スマート・ラーニングを推進し、100科目以上の設置を目指す。

○マイナー、サーティフィケート・プログラムの充実

英語により開講されている国際日本学関連に認定された科目を履修するグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築し、平成30年度より導入、副専攻学位を授与、サーティフィケートを授与している。さらに、大学院でも大学院国際実践プログラムとして、7つの副専攻学位のプログラムおよび、サーティフィケート・プログラムを設置した。

○ 飛び入学と早期卒業を組み合わせた多様なアカデミックパス

先進科学プログラムとして実施している飛び入学や早期卒業を組み合わせることで、22才でダブルメジャー(3年(早期卒業)+2年-1年(飛び入学分)=4年)を修得するプログラムを計画した。また、B7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施した。年間5-7名がこの制度を利用し、早期卒業して修士に進学している。

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサン+イチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たに「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目的開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、約1.5%増加した。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

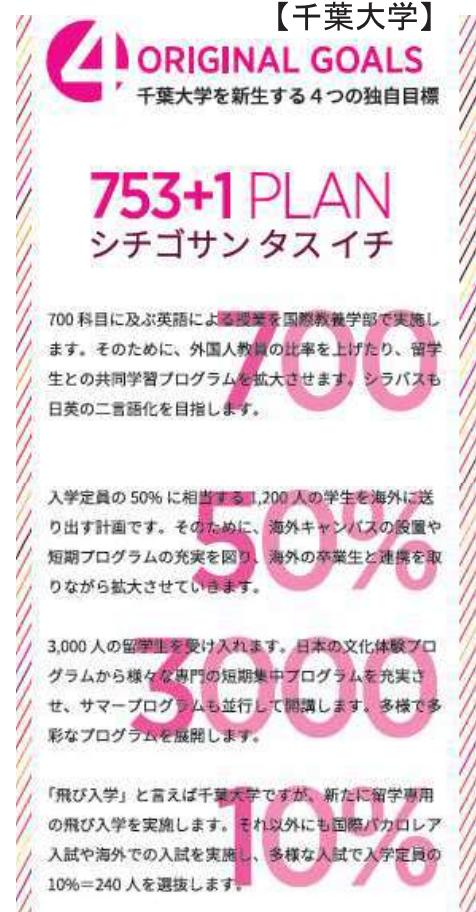
平成31年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで約900名程度の学生を派遣した。令和2年度からは、ENGINEプランで全員留学を実施する。本年度は、そのための準備を行った。令和2年度には、修士課程の2,000人が、令和3年度には、学部を含め3,000名が留学し、4年後には、年間4,000名以上の学生が留学することになる。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、年間3,000人の留学生の受け入れを実現する。ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人の受け入れを実施する。平成31年度には、14のショート・プログラムを実施し、約300名の留学生を獲得できた。また、専門課程におけるセメスタープログラムも開始し、80名近くを受け入れることができている。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では令和2年度入試で定員の11%を英語による特色入試、6%をAO入試で選抜。AO入試は他学部にも拡大予定。



【千葉大学】

ORIGINAL GOALS

千葉大学を新生する4つの独自目標

753+1 PLAN

シチゴサンタスイチ

700

50%

3,000

10%

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様で多彩なプログラムを開設します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜します。

〈753+1計画のパンフレット〉

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部の進化→多様な大学院進学 日本初研究科等連携学位プログラム「総合国際学位プログラム」設置

平成28年度に設置した国際教養学部では、最初の卒業生を出した。卒業生の20%近くが大学院に進学し、多様な学を実現している。広範な文理混合教育の成果は、大学院進学に現れており、新たに研究科等連携学位プログラムとして設置した「総合国際学位プログラム」以外にも、文学系から工学系、園芸系に至るまで、文理混合の学を継続している。

○ 特別専門職SULAの創設→シニアSULAポストの設置

SULAは、本年度で37名となった。このSULAを戦略的に組織化するため、シニアSULA(SULAの管理職)のポストを設置、全学のSULAを管理し、様々な学習支援に関する情報の一元化を実現した。そのため、あまりSULAを必要としない学部(教育学部(免許取得学部)・医学部・薬学部・看護学部)には、全学のSULAが対応するようになっている。

○ 時間を貯金しダブルメジャーや留学で利用する「国際教養学プログラム」

現在実施している飛び入学は、主に理系を対象としている。そこで、本プログラムでは、新たに文理混合の飛び入学を実施する。この飛び入学と早期卒業を組み合わせ、22才でダブルメジャーの取得や1年以上の長期留学を実施する。平成27年度にはすでにB7M5プログラム(学部を3.5年で早期卒業し、2.5年の修士プログラムの1年目を留学)を実施している。

○ ワールドスクール 大学院メジャー・マイナープログラム

大学院ワールドスクールは、大学院国際実践プログラムとして設置した。現在は、「植物環境デザイン」「ポスト・アーバン・リビングイノベーション」「植物環境イノベーション」「極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成」「COILを使用した日米ユニーク・プログラム」などの研究科を横断する全学を対象とした7つのプログラムをそれぞれ履修することで、副専攻学位(マイナー)あるいはサテライトイニケートを授与している。このプログラムは、イノベーション教育センターで設置し、今後も新たなプログラムを設置していく。

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワークの構築

平成30年度の最後に、グローバル・キャンパス推進基幹を新たに設置し、バンコク・キャンパス(平成29年9月)、ベルリン・キャンパス(シャリテ・ベルリン医科大学(旧フンボルト大学医学部)平成28年)、サンディエゴ・キャンパス((UC San Diego)平成28年)の海外3キャンパス、IECオフィス、海外事務所、合計17の拠点を戦略的に管理し、全員留学を推進していく。



〈ベルリンキャンパス主催のWHO見学会〉

○ 国内他大学とのネットワークの構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、理工系大学連合であるE9(中国卓越大学連盟)との連携協議および情報交換会を実施した。今後も、多様なアライアンスで、国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

8. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【千葉大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○千葉大学グローバル人材育成"ENGINE"始動

令和2年度より、グローバル人材育成戦略をさらに拡大展開するために、千葉大学グローバル人材育成プラン"ENGINE(Enhanced Network for Global Innovative Education)"を開始した。このENGINEは、全員留学、英語教育改革、スマートラーニングの強化、を3つの柱としている。



●全員留学⇒留学代替オンラインプログラムの構築

全員留学に向け、これまで語学・文化体験／協働学習／社会体験／研究等、留学目的や滞在期間、語学力に合わせたさまざまな留学プログラムを構築してきたが、令和2年度はコロナ禍に対応するため、オンラインによる留学プログラムを設置し、実施した。プログラムは、ヨーク大学(イギリス)やウォータールー大学レニソン・カレッジ(カナダ)など海外大学との連携によるものや、スタディ・アブロード・ファウンデーション(SAF)との連携によるものなどがあり、令和2年度は349名が参加した。また、令和3年度に向け、以下のオンライン留学プログラムなど30プログラムを構築した。

・ヨーク大学(イギリス)

英語運用能力向上のための授業をレベル別クラスで受講するほか、ヨークおよびイギリスの文化や政治、建築について講義およびバーチャルツアーア等により学ぶ。また、グループごとにイギリスに関する社会問題を見つけ具体的な課題を調査し、解決案を考えプレゼンテーションを行う。

・コヴェントリー大学(イギリス)

神話、民話、音楽、シチュエーションコメディーを通してイギリス文化を概観するほか、イギリスにおける自動車産業発祥の地であるコヴェントリーの車産業の歴史およびサプライチェーンのマネジメント、またBrexitが車産業に与える影響について考察する。



・ラサール・ボーヴェ工科大学(フランス)

フランスのテロワール(食物の生育環境)がフランスの食文化にもたらす影響や、フランスにおける持続的な食糧生産、食による健康科学について概観する。

・マヒドン大学(タイ)

ASEAN加盟や東アジア地域包括的経済連携等、政治経済的な地域統合の意味とは何か、日本とタイの立場から考察する。

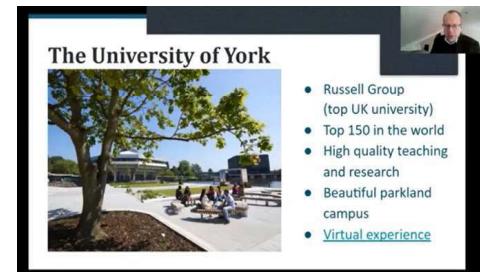
・レジャイナ大学(カナダ)

カナダ及びサスカチュワン州の地理的多様性(平野、森林、山岳、湖沼、河川等)について概観するほか、カナダにおける先住民について学び、先住民との共生から多文化共生について考察する。

・バサイトマ大学(ウガンダ)

ウガンダがコーヒービジネスを通して実践するSDGsについて学ぶほか、ウガンダの湿地の現状・保全活動とラムサール条約について理解を深める。

・その他 台湾、中国、インド、アメリカ、オーストラリア、イタリア、ドイツ、オランダ、アイルランド、エクアドルなど。



＜プログラム紹介の様子:ヨーク大学＞

＜プログラム紹介の様子:コヴェントリー大学＞

●英語教育のカリキュラム改革

令和2年度より、英語の必修科目単位数を倍増させ、実社会で英語を武器にコミュニケーションを図ることができる能力の養成を目指すカリキュラムとした。これらの授業は完全レベル別編成で行う。専門課程でも、プレゼンテーション中心の英語による授業を開講し、継続的に英語を学習する制度改革を行った。

●スマートラーニングの強化

ICTを活用した双方向個別学修システムであるスマートラーニングを用いて、海外留学時でも国内で行われている授業を受講したり、日本にいる教員からの継続的な指導を受けたりすることができる「いつでもどこでも学べる環境」を整備した。学生の受講管理および評価が可能な環境が学習管理システム上に構築されており、スマートラーニング(メディア授業)により実施される授業数は7533コース、配信される動画数は33,000本となり、前年度から大きく増加した。

■ ガバナンス改革関連

○ グローバルな人事システム

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、前年度に引き続き300名以上の実績を確保した。また、平成27年度よりクロス・アポイントメントの整備により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。

○ 新たな独自採用試験「グローバル人材枠」

教育課程のグローバル化対応のため、新たに国際化専門職員を採用する独自採用試験を開始し、令和2年度は2名を採用した。採用者は主として語学力を活かした学生支援や国際関係業務に従事することとしており、専門職員の拡張を図る。

■ 教育改革関連

○ 副専攻(マイナー)、サーティフィケート・プログラムの充実

専門領域を横断的に学習することを目的に、現在副専攻(マイナー)を現在学部レベルで3つ、大学院レベルとして7つ設置し、副専攻またはサーティフィケートを授与している。学部の3つのマイナー・プログラムは、それぞれのマイナーから2~3単位を必修科目として開講し、学生に副専攻を取得する動機づけにしている。「国際日本学」には国際日本学関連科目として認定された英語による科目を履修し修了を目指すグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築している。



＜国際日本学 2021 パンフレット＞

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサンナイチ)計画

○ 「7」-700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比、約1.5%増加した。

○ 「5」-50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

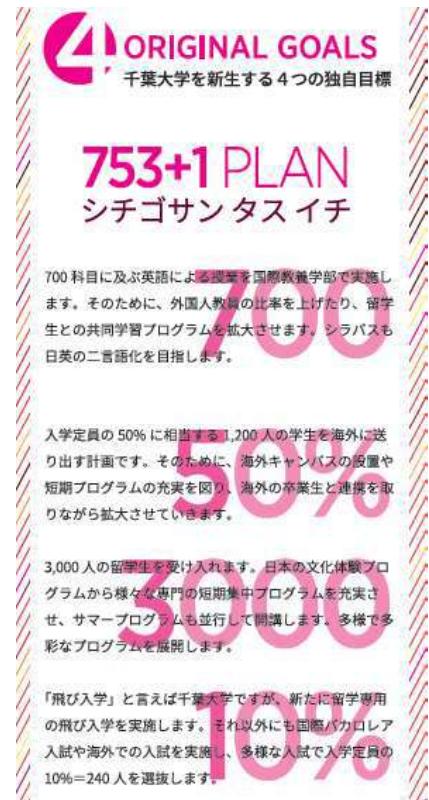
平成31年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで約900名程度の学生を派遣した。ENGINEプランで全員留学を実施するが、現状コロナ禍により移動を伴う留学プログラムは中止している。令和2年度はオンラインによる留学プログラムを推進し、349人が参加した。また、収束後にはこれまで構築した多種多様のプログラムにより毎年約2,400人が留学することとなる。

○ 「3」-3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、合計年間3,000人(ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人)の留学生受け入れを実現する。平成31年度には、14のショート・プログラムを実施し、約300名の留学生を獲得できた。また、専門課程におけるセメスター・プログラムも開始し、80名近くを受け入れることができている。現在は全てを中止しているが来年度以降に再開していく。

○ 「1」-10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10% = 240人を選抜する。海外入試は韓国、台湾、中国及び香港において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では令和3年度入試において定員の8%を英語による特別選抜で選抜している。



<753+1計画のパンフレット>

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部の理念である「国際」「日本」「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型教育を全学展開する。そのため、令和2年度以降の入学生へENGINEプランを展開し、さらなるグローバル、さらなる混合型教育を推進していく。

○ 日本初研究科等連係学位プログラム「総合国際学位プログラム」設置

令和2年4月に全国で初の研究科等連係課程基本実施組織として「大学院総合国際学位プログラム(修士課程)」を設置した。本プログラムでは、既存の学問領域を超え、分野を横断して問題の解決を目指した知識生産を行うトランスディスクリナリーな教育・研究を展開し、自主的・自立的に研究計画を立案するセルフ・デザイン・メジャー(自己設計専攻)等を特徴としている。

○ 学務系専門職SULAの創設→シニアSULAポストの設置

学生個人のニーズに即したテラーメード教育の実現のため、海外大学を卒業または留学経験のある職員等から、学修支援や関連する専門的業務を行う新たな専門職SULA(Super University Learning Administrator)を育成し、国際化を推進している。令和2年度は全学に43名配置しており、最終的には60人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。このSULAを戦略的に組織化するため、シニアSULA(SULAの管理職)のポストを設置、全学のSULAを管理し、様々な学習支援に関する情報の一元化を実現した。

■ 自由記述欄

○ コロナ禍における取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、オンラインによる学修支援を強化した。国際教養学部では、SULAによる定期的なオフィスアワーや独自のピアサポート制度“Student SULA”による支援を、イングリッシュハウスでは、オンラインによる英会話セッションを対面と並行してオンラインで開始し、困難な状況に置かれた学生に対応する環境づくりを行った。



<バーチャル・キャンパス・ツアー動画>

○ 英語による映像コンテンツの強化

コロナ禍においても本学の魅力をアピールするため、またアフターコロナの学生交流再開に向け、本学への留学を目指す留学生向けに、バーチャルキャンパスツアーや大学紹介動画等、英語による映像コンテンツの強化を行った。



<イングリッシュハウス
英会話セッション紹介動画>

○ グローバル・キャンパス推進基幹によるグローバル・ネットワークの構築

平成30年度にグローバル・キャンパス推進基幹を新たに設置した。バンコク・キャンパス(マヒドン大学)、ベルリン・キャンパス(シャリテ・ベルリン医科大学)、サンディエゴ・キャンパス(カリフォルニア大学サンディエゴ校)の海外3キャンパス、IECオフィス、海外事務所、合計17の拠点を戦略的に運営・管理し、全員留学を推進する。

○ 国内・海外大学とのネットワーク構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、理工系大学連合であるE9(中国卓越大学連盟)との連携協議および情報交換会を実施した。今後も、多様なアライアンスで国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。

9. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【千葉大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

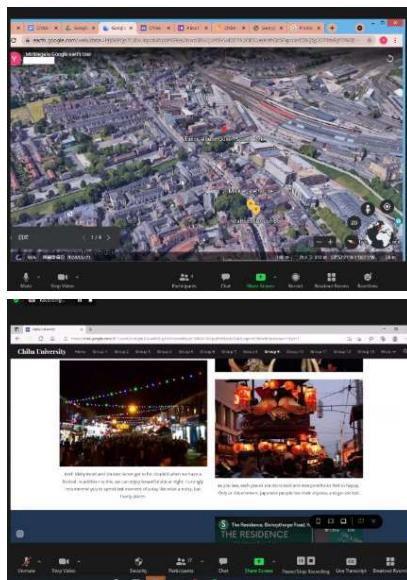
○千葉大学グローバル人材育成"ENGINE"本格化

令和2年度に始動した、グローバル人材育成戦略をさらに拡大展開するための千葉大学グローバル人材育成プラン"ENGINE(Enhanced Network for Global Innovative Education)"を本格化した。このENGINEは、全員留学、英語教育改革、スマートラーニングの強化、を3つの柱としている。



●全員留学⇒留学代替オンラインプログラムの構築

全員留学に向け、これまで語学・文化体験／協働学習／社会体験／研究等、留学目的や滞在期間、語学力に合わせたさまざまな留学プログラムを構築してきたが、**令和3年度はコロナ禍に対応するため、オンラインによる留学プログラムを設置し、実施した。**プログラムは、以下のヨーク大学(イギリス)、マヒドン大学(タイ)など海外大学との連携によるものや、スタディ・アブロード・ファウンデーション(SAF)との連携によるものなど、39プログラム実施し、1,045名が参加した。



＜ヨーク大学プログラム映像＞

・ヨーク大学(イギリス)

英語によるコミュニケーション・プレゼンテーションスキル向上のための授業(ハイリー・ポッターから学ぶ英語表現もあり)のほか、イギリス建築文化の概観等について学ぶ。

・コヴェントリー大学(イギリス)

英語研修授業のほか、イギリスの自動車産業の歴史およびジャガー・ランドローバーを例にブランドイメージ戦略等、ビジネスマネジメントについて学ぶ。企業へのバーチャルツアーも実施する。

・ラサール・ボーヴェエ工科大学(フランス)

フランスのテロワール(食物の生育環境)がフランスの食文化にもたらす影響を考察するほか、バーチャルツアーや脱出ゲームにより、フランスの景観を構成する要素を考える。

・マヒドン大学(タイ)

日本を第一位の投資国とするタイと繋ぎ、RCEP(東アジア地域包括的経済連携)を含めた政治経済的な地域統合の意味を、日本とタイ双方の立場から考察する。

・バサイトマ大学(ウガンダ)

ウガンダで実践されているSDGsについてアメリカ・デイトン大学の学生も交えて学ぶほか、ウガンダの湿地とラムサール条約について理解を深める。エイズ孤児を支援するNGOの活動についても学ぶ。

・その他 カナダ、パナマ、台湾、アメリカ、オーストラリア、アイルランド、イタリア、ドイツ、オランダ、エクアドル、インド、中国など。

●英語教育のカリキュラム改革

令和2年度より、英語の必修科目単位数を倍増させ、実社会で英語を武器にコミュニケーションを図ることができる能力の養成を目指すカリキュラムとなっている。これらの授業は完全レベル別編成で行う。専門課程でも、プレゼンテーション中心の英語による授業を開講し、継続的に英語を学習する制度改革を行った。

●スマートラーニングの強化

ICTを活用した双方向個別学修システムであるスマートラーニングを用いて、海外留学時でも国内で行われている授業を受講したり、日本にいる教員からの継続的な指導を受けたりすることができる「いつでもどこでも学べる環境」を整備した。

学生の受講管理および評価が可能な環境が学習管理システム上に構築されており、**スマートラーニング(メディア授業)**により実施される授業のコース数は9,897コースとなり、前年度より大きく増加した。

■ ガバナンス改革関連

○ グローバルな人事システム

平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、前年度に引き続き300名以上の実績を確保した。また、平成27年度より**クロス・アポイントメントの整備**により海外大学の研究者を採用し、今後海外教員の採用を推進する。

■ 教育改革関連

○ 副専攻(マイナー)、サーティフィケート・プログラムの充実

専門領域を横断的に学習することを目的に、**現在副専攻(マイナー)を現在学部レベルで3つ、大学院レベルとして7つ設置し、副専攻またはサーティフィケートを授与している。**学部の3つのマイナー・プログラムは、それぞれのマイナーから2~3単位を必修科目として開講し、学生に副専攻を取得する動機づけにしている。「国際日本学」には**国際日本学関連科目として認定された英語による科目を履修し修了を目指すグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築している。**さらに、令和4年度には大学院レベルで2つプログラムを追加することとなっている。



＜国際日本学 2022 パンフレット＞

■ 大学独自の成果指標と達成目標 753+1(シチゴサンナイチ)計画

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目の開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度と同等で推移している。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

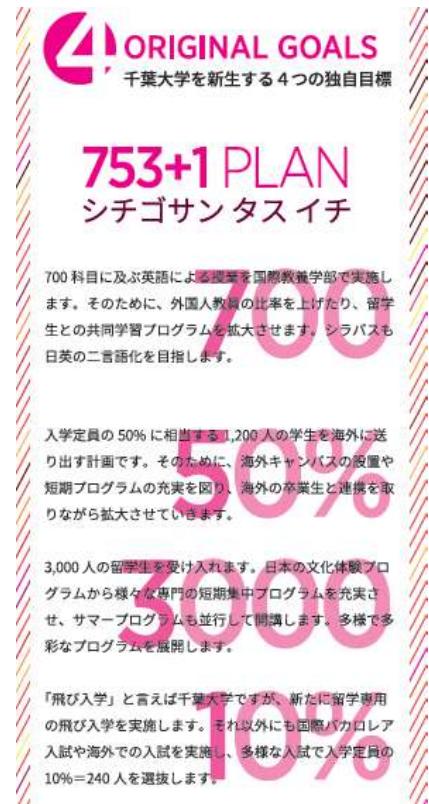
コロナ禍前の平成31年度には留学導入専用のBOOTプログラムなどで約900名程度の学生を派遣した。ENGINEプランで全員留学を実施するが、現状コロナ禍により移動を伴う留学プログラムは中止している。令和3年度はオンラインによる留学プログラムを推進し、1,045人が参加した。また、収束後にはこれまで構築した多種多様のプログラムにより毎年約2,400人が留学することとなる。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、合計年間3,000人(ディグリープログラム800人、セメスタープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人)の留学生受け入れを実現する。平成31年度には、14のショート・プログラムを実施し、約300名の留学生を獲得できた。また、専門課程におけるセメスタープログラムも開始し、80名近くを受け入れることができている。現在は全てを中止しているが来年度以降に再開していく。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロレア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国、台湾、中国及び香港において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では令和4年度入試において定員の8%を英語による出題を含む特別選抜で選抜している。



<753+1計画のパンフレット>

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部の理念である「国際」+「日本」+「科学」をブレンドして学ぶ文理混合型教育を全学展開する。そのため、令和2年度以降の入学生へENGINEプランを展開し、さらなるグローバル、さらなる混合型教育を推進していく。

○ 日本初研究科等連係学位プログラム「総合国際学位プログラム」設置

令和2年4月に全国で初の研究科等連係課程基本実施組織として「大学院総合国際学位プログラム(修士課程)」を設置した。本プログラムでは、既存の学問領域を超え、分野を横断して問題の解決を目指した知識生産を行うトランスディスクリナリーな教育・研究を展開し、自主的・自立的に研究計画を立案するセルフ・デザイン・メジャー(自己設計専攻)等を特徴としている。

○ 学務系専門職SULAの創設→シニアSULAポストの設置

学生個人のニーズに即したテラーメード教育の実現のため、海外大学を卒業または留学経験のある職員等から、学修支援や関連する専門的業務を行う新たな専門職SULA(Super University Learning Administrator)を育成し、国際化を推進している。令和3年度は全学に50名配置しており、最終的には60人程度のSULAを全学教育運営支援組織に配置させる。このSULAを戦略的に組織化するため、シニアSULA(SULAの管理職)のポストを設置、全学のSULAを管理し、様々な学習支援に関する情報の一元化を実現した。

■ 自由記述欄

○ コロナ禍における取り組み

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、オンラインによる学修支援を強化した。国際教養学部では、SULAによる定期的なオフィスアワーや独自のピアサポート制度

“Student SULA”による支援を、イングリッシュハウスでは、オンラインによる英会話セッションを対面と並行してオンラインで開始し、また、各種イベントを対面・オンラインのハイブリットで実施するなど、困難な状況に置かれた学生に対応する環境づくりを行った。

○ グローバル教育WEBサイトの強化

コロナ禍にあって実渡航が叶わない中でも、本学のグローバル人材育成の取組に興味を持ってもらうため、グローバル教育の取組や、外国語学習ツールをまとめたWEBサイトの強化を行った。

○ グローバル・キャンパス推進基幹によるグローバル・ネットワークの構築

平成30年度にグローバル・キャンパス推進基幹を新たに設置した。バンコク・キャンパス(マヒドン大学)、ベルリン・キャンパス(シャリテ・ベルリン医科大学)、サンディエゴ・キャンパス(カリフォルニア大学サンディエゴ校)の海外3キャンパス、IECオフィス、海外事務所、合計17の拠点を戦略的に運営・管理し、全員留学を推進する。

○ 国内・海外大学とのネットワーク構築

国立六大学連携(千葉・新潟・金沢・岡山・長崎・熊本)では、AUN(アセアン大学ネットワーク)との連携や、理工系大学連合であるE9(中国卓越大学連盟)との連携協議および情報交換会を実施した。今後も、多様なアライアンスで国内大学と連携し、海外のアライアンスとの同等連携を目指す。



<イングリッシュハウス
英会話セッション紹介動画>

10. 取組内容の進捗状況(令和4(2022)年度)

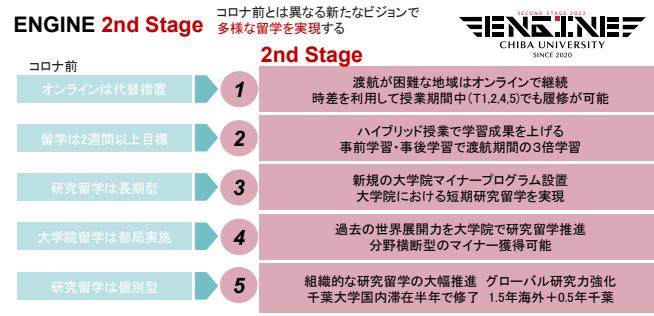
【千葉大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

國際化関連

○千葉大学グローバル人材育成"ENGINEプラン"本格化

千葉大学グローバル人材育成プラン“ENGINE(Enhanced Network for Global Innovative Education)”は3年目となり、セカンドステージに突入した。2021年に策定した大学のビジョンにおいても「世界に学び、世界に貢献する人材の育成」が位置付けられ、3つの目的のもと5つの取組みを推進している。



● 全員留学－実留学の再開およびオンライン留学の継続－

コロナ禍により停滞していた実留学を、7月以降に本格再開した。また、オンライン海外留学プログラムは継続実施を行なった。オンライン留学の副産物として、T(ターム)2,T5での、「時差を活用した朝活・夜活のオンライン海外留学プログラム」を実施でき、授業期間中でも、大学の授業前や授業後にオンライン留学に参加し、時間を節約したオンライン留学が実現できている。オンラインオンサイトを含め62のプログラムを実現した。

● 英語教育のカリキュラム改革

令和2年度より、英語の必修科目単位数を倍増させ、実社会で英語を武器にコミュニケーションを図ることができる能力の養成を目指すカリキュラムとなっている。これらの授業は完全レベル別編成で行っている。専門課程でも、プレゼンテーションを中心の英語による授業を開講し、継続的に英語を学習する制度改革を行った。大学院レベルのプログラムも実施し、グローバルな舞台での論文執筆や研究発表に大きく貢献している。

● スマートラーニングの強化

ENGINEプランが始動し3年が経過し、スマートラーニングもかなり体系化することができた。ほぼすべての授業となる5,000科目以上を対象として精査し、大学院においても、大学院共通教育の科目として80科目以上のスマートラーニング科目が構築された。なお、3年の間に改訂を繰り返すことでクオリティも上がっている。また、スマートラーニングの強化により、学部でも大学院でも海外の留学先でもオンラインで他の授業を受講できるようになっただけでなく、国内5キャンパスでの協働学習が、キャンパス間を移動しなくとも可能となった。

ガバナンス改革関連

○ グローバルな人事システム

外国人教員の雇用を積極的に進めており、令和4年5月1日現在で161名の教員が在籍している。また、平成26年度より積極的に年俸制を導入しており、令和5年5月1日現在で581名に適用している。これは、SGU期間中の目標数値である521名を大きく上回る数値であり、今後もさらに対象者を広げていく予定である。

○ 高等教育センターの設置

令和4年度に新設した高等教育センターは、社会に求められる人材像を踏まえ、学生のニーズや本学の強み・特色を生かした多様なプログラムの設置を推進している。本年度は、学生へのプログラムの広報を積極的に展開し、プログラムの履修証明を獲得できることで学生の学習意欲向上させ、全学に普及させている。

連関改革改教育

○ 副専攻(マイナー)、サーティフィケート・プログラムの充実

専門領域を横断的に学習することを目的として、副専攻(マイナー)を、現在学部レベルで3つ、大学院レベルで9つ設置している。学生は取得単位数により副専攻またはサーティフィケートを取得できる。学部の3つのマイナー・プログラムは、それぞれのマイナーから2~3単位を必修科目として開講し、学生に副専攻を取得する動機付けにしている。「国際日本学」には国際日本学関連科目として認定された英語による科目を履修し修了を目指すグローバル・マイナーや、通常のマイナー、さらにはそれよりも単位取得要件が低いサーティフィケートなどの多様なシステムを構築している。令和3・4年度に設置した大学院レベルの2プログラムは、いずれも先進国、発展途上国問わず極めて重要な社会的な課題を解決するものであり、これらのプログラムを実施することで、グローバルで課題解決力の高い学生を輩出できている。



GRIP (グローバル地域ケアTPEプラス創生人材の育成)

大学院看護学研究科がリードし全学実施
世界の多様な看護・ケアに精通した知識を獲得
インド・オーストラリア・英国・日本の
リーフレット



CAMPUS
ASIA+
2021

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 「7」－700科目の英語での授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために、外国人教員の比率を上げ、留学生との共同学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目的開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比で約1%増加した。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

ENGINEプランで全員留学を推進している中、コロナ禍により実渡航による留学が停滞した時期はあったが、その一方でオンライン留学の開発が進んだこともあり、実渡航とオンライン、多様な留学プランを用意することにつながった。その結果、実渡航とオンライン合わせて2,000人を超える学生が本学主催のプログラムで留学した。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

最終年度までに、合計年間3,000人（ディグリープログラム800人、セメスターープログラム1,000人、ショート・プログラム1,200人）の留学生受け入れを実現する。コロナ禍で落ち込んだ留学生数だったが、令和4年度には多数のショート・プログラムを実施し、実渡航とオンライン合わせて約1,647名の留学生を獲得できた。

○ 「1」－10% 入学定員の10%（240人）を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は韓国、台湾、中国及び香港において実施し、今後拡大予定である。国際教養学部では令和5年度入試において定員の8%を英語による出題を含む特別選抜で選抜している。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ 国際教養学部から全学へ展開するグローバル・プログラム

国際教養学部は、学内で最初に留学を必修とした学部である。その成果をもとに現在ENGINEプランで全員留学を実現している。このように、一つの学部で試行し、それを全学に展開するという方法をとり、大学のグローバル化を推進してきた。こればかりではなく、国際教養学部における、4年間の英語学習、専門英語の学習プログラムの拡張などもENGINEプランに盛り込まれている。また、留年しないで卒業できる様なシステムもこの国際教養学部から発展したものである。ギャップターム制度の導入（必修科目を入れないタームの実施）、完全6ターム制なども、全て国際教養学部で試行し全学に展開したものである。

さらには、現在国際教養学で実施しているインテンシブ・イシュー型プログラムは、毎週2-3回授業を実施したり、1週間の集中授業を実施するなども国際教養学部で現在試行しており、その成果を導入して、新たなグローバル・プログラムやグローバル・プロジェクトを実施していく。

○ 日本初研究科等連係学位プログラム「総合国際学位プログラム」設置

令和5年3月で、全国で初の研究科等連係課程基本実施組織として「大学院総合国際学位プログラム（修士課程）」の修生2学年分が修了し、大学院で留学した学生を含め、一期生が全員修了している。今回修了者の半分は、初年度に入学した一期生である。これは多くの学生が多様な学習のために、休学や留年を実施しているためである。就職先も1/3が博士課程に進学したり研究所に勤務している。

本プログラムでは、既存の学問領域を超えて、分野を横断して問題の解決を目指した知識生産を行うトランスディスクリナリーな教育・研究を展開し、自主的・自立的に研究計画を立案するセルフ・デザイン・メジャー（自己設計専攻）等を特徴としている。このように、4研究科の連携により実施されている本プログラムのユニークさが、学生の就学プロセス・留学・就職進路を極めてユニークなものとしている。

■ 自由記述欄

○ 未来創造型のプログラム構築

千葉大学では、新たなグローバル・プログラムを実施していく。これは、組織的な研究留学の大幅推進や、グローバル研究力強化を中心とした研究プログラムを実施していくものである。例えば、千葉大学国内滞在半年で修了できるプログラムを、日本人にも留学生にも適用する。1.5年を海外の大学で学び、0.5年を千葉大学で学ぶようなこれまでにないプログラムを実施していく。その一例としての、ソーシャル・デザイン・イニシアティブでは、サーキット型研究留学を推進し、日本・韓国・中国・バンコクの4拠点で同一のテーマで、各国の課題を実施、その成果を修士や博士の研究としてまとめるものである。

また、その先のプログラムとして「未来創造型プログラム」の構築を行う。このプログラムは、ライフサイエンス+データサイエンス+グローバル+デザインで未来思考型のグローバル創造型人材を育成。全学に波及させ新たな学習モデルを構築していくことを、REAL ENGINE 2nd Stageとして推進する。



753+1 PLAN シチゴサン タス イチ

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様で多彩なプログラムを展開します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜します。

<753+1計画のパンフレット>



<インテンシブ・イシュー型プログラム>

ENGINE 2nd Stage

2024 組織的な研究留学の大幅推進 グローバル研究力強化
千葉大学国内滞在半年で修了 1.5年海外+0.5年千葉

5

CAMPUS ASIA+

ソーシャル・デザイン・イニシアティブ
サーキット型研究留学を推進
日本・韓国・中国・バンコク 4拠点で異なる課題を実施
その成果を研究としてまとめる



NEW PROGRAM

未来創造型プログラム構築

ライフサイエンス+データサイエンス+グローバル+デザインで未来思考型のグローバル創造型人材を育成

全学に波及させ新たな学習モデルを構築

REAL ENGINE 2nd Stage

11. 取組内容の進捗状況(令和5(2023)年度)

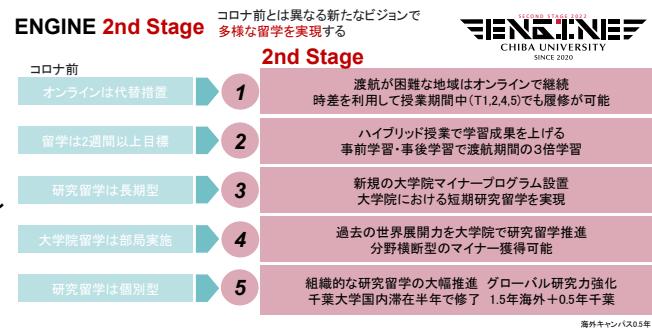
【千葉大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○千葉大学グローバル人材育成プラン"ENGINE"完成

千葉大学グローバル人材育成プラン"ENGINE(Enhanced Network for Global Innovative Education)"は4年目となり、4年制学部にとっては完成年度を迎えた。現在はコロナ禍を経てのセカンドステージとして、次に続くENGINE2.0の検討も含め前進している。2021年に策定した大学のビジョンにおいても「世界に学び、世界に貢献する人材の育成」が位置付けられ、3つの目的のもと5つの取組を推進している。



● 全員留学－実留学の充実および特色あるオンライン留学の継続－

コロナ禍において多くを占めたオンライン留学に対し、今年度は実渡航が多数を占めるようになった。他方で、比較的実渡航が困難な地域のオンライン留学としては、ウガンダ、パナマ、ジャマイカに加えて、日本ラテンアメリカカリブ振興協会(JAPOLAC)の協力のもと新たにチリ(サンティアゴ・デ・チレ大学)のプログラムを発足させ、ユニバーサル・スタディの拡充につとめた。これら取組により、留学実績は実渡航・オンライン合わせて約230プログラム、約3,900名に達した。

● 英語教育のカリキュラム改革

令和2年度より、英語の必修科目単位数を倍増させ、実社会で英語を武器にコミュニケーションを図る能力の養成を目指すカリキュラムとなっている。また、専門英語への接続を重視している。令和5年度には、ICTを利用したコミュニケーション英語の双方向性を実現するために、CALL英語のシステムを全面的に改修し、特色ある英語教育の実現につとめた。

● スマートラーニングの強化

ENGINEプランが始動し4年が経過し、スマートラーニング(留学中も授業を履修できる仕組み)の振興も学生の国際的モビリティを支える手段として定着した。メディア授業への対応から実質的にBYODが実現され、ICT技術の利用を通じて地球上のどの地域にいても学修を継続可能な仕組みが実現し、長期留学の促進に資するものとなっている。令和5年度は、大学院共通教育において、キャンパスの違いや時間の差異を超えるためオンデマンドを中心とする科目を複数構築した。

ガバナンス改革関連

○ グローバルな人事システム

外国人教員の雇用を積極的に進めており、令和5年5月1日現在で187名の教員が在籍している。また、平成26年度より導入している年俸制適用者は令和5年5月1日現在で581名に達しており、SGU期間中の目標数値である521名を大きく上回っているほか、テニュアトラック制についても、目標数値35人のところ39人と目標を上回る実績となっている。

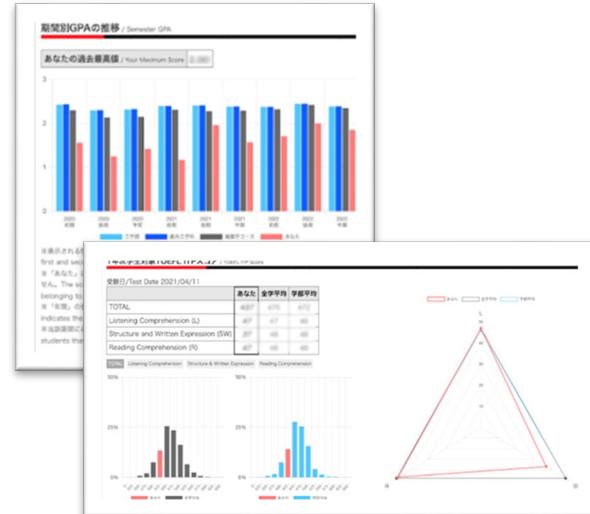
○ SULA組織の充実

令和元年度に設置したSULA支援室によるSULA(学務系専門職)育成とマネジメント実施により、SULAは令和5年度に61名となり、計画の60人を超過する実績となった。国際教養学部では、学修支援の内容の高度化とともに機能分化を進め、一般的・日常的な学生相談については在学生によるピアサポートを実施するStudent SULAに委ねるなどしている。結果、留学・履修・進学・就職等について200件の相談を受けており、学生にとって大きな助けとなっている。

教育改革関連

○ デジタル・ポートフォリオによる学修DX推進

令和3年度に更新した学修支援システムを基に、デジタル・ポートフォリオとして「学びのダッシュボード」を運用し、学生は自身の履修状況・単位修得状況と授業内での位置を随時確認することが可能となっている。令和5年度にはスマートラーニングセンターを中心として、学びのダッシュボードの利用方法や改訂について議論を行った。また、学修成果の可視化を進めるため学位授与に伴う学修状況・学修履歴を明示するため、新たな試みとして令和5年9月卒業・修了生および令和6年3月卒業・修了生に対してディプロマ・サブリメントを発行した。これは、国際通用性を実現するため、卒業後のグローバルな活躍に資するように、すべて英文で発行している。また、EUのディプロマ・サブリメントにはない能力別の達成水準を表現するレーダーチャートも導入し、千葉大学独自の形式を実現した。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 「7」－700科目の英語による授業を実施

700科目に及ぶ英語による授業を新たな「国際教養学部」で実施する。そのために外国人教員の比率を上げ、留学生との協働学習プログラムを拡大させる。シラバスも日英の二言語化を目指す。平成27年度の新規採用教員から、全員に英語による教養科目的開設を義務づけている。外国人教員比率は前年度比で約1%増加した。なお、外国人教員比率は毎年増加し続けている。

○ 「5」－50% 入学定員の半分(1,200人)が留学

ENGINEプランで全員留学を推進している中でのコロナ禍ということで、当時、オンライン留学の開発が進んだことと、コロナ後の実渡航の増加により、令和5年度は実渡航・オンライン合わせて約3,900名が留学した。

○ 「3」－3,000人の外国人留学生を受け入れ

コロナ禍で落ち込んだ受入留学生数だったが、令和5年度には多数のショート・プログラムを実施し、実渡航・オンライン合わせて1,700名を超える外国人留学生を獲得できた。目標の年間3,000名に向けて着実な歩みを進めている。

○ 「1」－10% 入学定員の10%(240人)を多様な入試で受入

千葉大学の強みである「飛び入学」を推進する。そのために、新たに留学専用の飛び入学を実施する。それ以外にも国際バカロア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜する。海外入試は台湾、中国において実施した。国際教養学部では令和6年度入試において定員の8%を英語による出題を含む特別選抜によって選抜している。

<753+1計画のパンフレット>



753+1 PLAN シチゴサンタスイチ

700科目に及ぶ英語による授業を国際教養学部で実施します。そのために、外国人教員の比率を上げたり、留学生との共同学習プログラムを拡大させます。シラバスも日英の二言語化を目指します。

入学定員の50%に相当する1,200人の学生を海外に送り出す計画です。そのために、海外キャンパスの設置や短期プログラムの充実を図り、海外の卒業生と連携を取りながら拡大させていきます。

3,000人の留学生を受け入れます。日本の文化体験プログラムから様々な専門の短期集中プログラムを充実させ、サマープログラムも並行して開講します。多様なプログラムを展開します。

「飛び入学」と言えば千葉大学ですが、新たに留学専用の飛び入学を実施します。それ以外にも国際バカロア入試や海外での入試を実施し、多様な入試で入学定員の10%＝240人を選抜します。

<753+1計画のパンフレット>

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ ワールド・スクールの充実

本事業では、世界を舞台にした教育を進めるため、本学の教育全体にかかわる改革を行っている。学生は主専攻であるメジャーに加えて副専攻であるマイナー、履修証明であるサーティフィケートを修得できる。学部のマイナー・サーティフィケートプログラムは「国際日本学」から開始し3つとなり、令和6年度には4つとなる予定であり、大学院のマイナー・サーティフィケートプログラム「大学院国際実践教育」も現在9つに拡充されている。学生は、分野横断的で国際的な学修を通して副専攻(マイナー)を修得でき、マイナーに満たない場合でも一定の単位数であればサーティフィケートが修得できる。さらに、令和5年度からはサーティフィケートよりも少ない単位数で認定されるパンチ・プログラム(マイクロクレデンシャル)の設置も開始している。これらの段階があることは、学生にとって学修への動機づけとなる。なお、これらマイナー・サーティフィケート・パンチの履修証明には、国際通用性のあるデジタルバッジを発行し、ディプロマサブリメントの一環とする。



<国際日本学パンフレット>

P-SQUARE (植物環境デザインプログラム)



CODE (大陸間デザイン教育プログラム)



TWINCLE (サイン型学生派遣プログラム)



PULI (ポスト・アーバン・リビング・インベーション・プログラム)



CAPE (植物環境イノベーション・プログラム)



FARM (未来農業プログラム)



COIL JUSU (COILを使用した日米ワーク・プログラム)



SDI-A (ソーシャル・デザイン・インシアティブ)



GRIP (グローバル地域ケア IPE プラス創生人材の育成)



<大学院国際実践教育9プログラムロゴ>



<ソーシャル・デザイン・インスティテュート>

■ 自由記述欄

○ グローバル・ネットワーク改革

タイ・バンコクでの新しい国際連携拠点として、キングモンクット工科大学トシリ校(KMUTT)にソーシャル・デザイン・インスティテュート(SDI)を令和6年4月1日に設置する準備を進めた。SDIは国際共同研究センターとして、本学とKMUTT共同で設置する日本-タイ初の共同研究機関であり、従来の専門領域ごとの研究センターではなく、包括的な研究センターとして設置する。今後、研究だけでなく高度な教育プログラムの運営も実施していく。

○ ENGINE2.0へ

令和2年度から開始したグローバル人材育成プランENGINEは4年目を迎え、節目のひとつとなった。次の段階としてENGINE2.0の策定を検討している。よりグローバルな視野を持ち、新しい研究や事業に主体的に取り組むマインドセットを持った人材を育成することを目標の一つと考え、アントレプレナーシップセンターの設置を計画している。これにより、新たな気質と気概をもつ有為の人材を生み出していく。